

## IASB のアジェンダ・ コンサルテーションに 関する意見募集

本年7月、国際会計基準審議会（IASB）は、アジェンダ・コンサルテーションに関する意見募集を行うことを公表した。

アジェンダ・コンサルテーションは、IASB の今後3年間の活動の方向性と議題選定にあたり、財務報告に関心を有する関係者からの意見を募るものである。IASB の作業計画の戦略的方向性と全体的なバランス、そして、今後3年間の個々のプロジェクト又はアジェンダ領域の優先順位、の2点が柱となっている。

IASB は、全体的な戦略的アプローチを、作業の決定要因となる5つの戦略領域と、それらを束ねる2つの主要な区分（「財務報告の開発」と「既存のIFRSの維持管理」）という形で暫定的に示し、このようなアプローチに同意するかどうか、5つの戦略領域をどのようにバランスさせるかについての関係者の意見を聞いている。

また、IASB は、現在、FASB との MoU の優先項目など、優先的に取り組むことを検討している事項や、概念フレームワークのプロジェクトや適用後レビューなど、取り組むことを予定している活動がある。そうした中、財務報告ニーズや資源の制約を考慮したうえで、既存のプロジェクト及び新規のプロジェクトの優先順位について、関係者の意見を聞いている。

当該アジェンダ・コンサルテーションは、我が国の関係者も含め、IASB を取り巻く関係者にとって関心の高い活動の1つであり、本稿では、その概要を紹介する。

### IASB のアジェンダ・コンサルテーションに関する意見募集

ASBJ シニア・プロジェクト・マネージャー 専門研究員 板橋 淳志

# IASBのアジェンダ・コンサルテーションに関する意見募集

ASBJ シニア・プロジェクト・マネージャー **いたばし あつし**  
**板橋 淳志**

## 1. はじめに

本年7月、国際会計基準審議会（IASB）は、アジェンダ・コンサルテーションに関する意見募集を行うことを公表した<sup>1</sup>。IASB 発足以降の10年間の活動を経て、国際財務報告基準（IFRS）の財務報告の言語としての役割はますます高まってきている。こうした中、当該アジェンダ・コンサルテーションは、IASBの次の課題をオープンに議論するための機会を提供するものであり、我が国の関係者も含め、IASBを取り巻く関係者にとって関心の高いものとなっている。以下では、当該意見募集の概要を紹介するが、文中の意見にわたる部分は筆者の私見であることをあらかじめお断りしておく。

## 2. アジェンダ・コンサルテーションの目的

アジェンダ・コンサルテーションは、IASBの今後の活動の方向性と議題選定にあたり、財務報告に関心を有する関係者からの意見を募るものである。IFRS財団の評議員会は、第2次

の定款見直しの際に寄せられたコメントに対応して、このアジェンダ・コンサルテーションのプロセスを導入した<sup>2</sup>。その目的は、様々な側面を持つアジェンダ設定プロセスについて公式に一般からの意見を受ける経路を設け、公的説明責任と正当性を高めること、そして、それによりIFRSへの関心とIFRSの実行可能性を国際的に深めることであった。

アジェンダ・コンサルテーションでは、主として次の2点について意見を求めている。アジェンダ・コンサルテーションを通じて受け取る関係者の意見は、資源配分や優先プロジェクトの決定、アジェンダの追加削除の議論に役立つとしている。

- (1) IASBの作業計画の戦略的方向性と全体的なバランス
- (2) 世界中での財務報告ニーズを踏まえて、今後3年間の個々のプロジェクト又はアジェンダ領域の優先順位

## 3. 全体的な戦略的方向性に関するIASBの暫定的な見解

IASBは、自身を取り巻く状況や2001年に

1 以下の website を参照のこと。http://www.ifrs.org/News/Announcements+and+Speeches/Letter+Hans+Hoogervorst.htm

2 IFRS財団定款第37条(d)(ii)

組織が発足して以降の変化を踏まえ、大まかな戦略的アプローチに反映すべき3つの側面（(1)多様化したIFRS共同体、(2)複雑化した市場環境、(3)適用を要する数々の変更）を提示している。そのうえで、関係者のコメントを促進する観点からIASBの暫定的な見解を示している。すなわち、作業の決定要因となる5つの戦略領域と、それらを束ねる2つの主要な区分（「財務報告の開発」と「既存のIFRSの維持管理」）を示し、このようなアプローチに同意するかどうか、5つの戦略領域をどのようにバランスさせるかについての関係者の見解を聞いている。

## (1) 財務報告の開発

### ① 概念フレームワーク（表示と開示のフレームワークを含む）

概念フレームワークの見直しの完了と、表示と開示のフレームワークの開発を通じた財務報告の有用性の改善により、IFRSの首尾一貫性を強化する。

### ② 財務報告に係る戦略的論点の調査研究

将来の基準設定への支援と財務報告に関するIASBの将来像の開発を目的として、調査研究に投資し、財務報告に関する戦略的論点に対応する。これには、IFRSと統合報告<sup>3</sup>との相互関係の探求も含まれる。

### ③ 基準レベルのプロジェクト

基準レベルのプロジェクト、すなわち、新規のIFRSの開発又は主要な修正により、IFRS文書の不足部分を補充する。IASBは、以前にアジェンダに加えたが延期したプロジェクト、IASBに提案のあった追加の可能性のあるプロジェクトのリストを示しており（図表1参照）、将来のアジェンダの潜在的な候補としている。

## (2) 既存のIFRSの維持管理

### ④ 適用後レビュー

新規のIFRS及び主要な修正の運用上の論点について、適用後レビューの実施を通じてより良い理解を得る。IASBは、デュー・プロセスの一部として、適用後レビューの実施を公約しており、これを通じて、適用上の問題に適切に対応することを目指している。

### ⑤ 適用上のニーズへの対応

IFRS適用の首尾一貫性と品質の改善を行うが、これは改訂後のIFRSのセットから生じる適用上のニーズへの対応により行われ、目標を絞った狭い範囲のIFRSの改善を利用する。これには、XBRL<sup>4</sup>のIFRSとの統合の完全性及び首尾一貫性の検討も含まれる。

意見募集では、全体的な戦略的方向性について次の質問が行われている（質問1）。

#### 質問1

何をIASBの戦略的優先事項とすべきだと考えるか。また、今後3年間にわたりそれらをどのようにバランスさせるべきか。

#### 質問1(a)

識別された2つの区分及びその中の5つの戦略領域に同意するか。反対の場合、IASBはどのようにアジェンダを作成すべきだと考えるか。その理由は何か。

#### 質問1(b)

2つの区分と5つの戦略領域をどのようにバランスさせるか。IASBのアジェンダについて他の領域を識別した場合には、回答にそれを記載されたい。

3 統合報告とは、企業の戦略及び財務的・非財務的業績の全体的かつ統合的な報告である。

4 XBRL（拡張可能な財務報告言語）は、事業及び財務報告に関する共通の電子的様式を提供する。

図表 1 以前にアジェンダに追加したが延期したプロジェクト及び新規のプロジェクト案<sup>5</sup>

	アジェンダに追加されたが延期された項目		プロジェクト提案
	相当の作業が行われたプロジェクト	ほとんど又は全く作業が行われていないプロジェクト	
農業（特に果実生成型の生物資産）			✓
共通支配下の企業間の企業結合		✓	
国別の報告			✓
割引率			✓
1株当たり利益	✓		
排出権取引スキーム	✓		
持分法会計			✓
採掘活動			✓
資本の特徴を有する金融商品	✓		
財務諸表表示——その他の包括利益の検討を除く	✓		
外貨換算			✓
政府補助金		✓	
法人所得税	✓		
インフレーション会計（IAS 第 29 号の修正）			✓
無形資産			✓
中間報告			✓
イスラム法準拠の取引及び金融商品			✓
負債——IAS 第 37 号の修正	✓		
その他の包括利益		✓	
退職後給付（年金を含む）		✓	
表示及び開示の基準			✓
料金規制事業			✓
株式報酬			✓

（注）既存の優先項目である収益認識、リース、保険契約、金融商品は、IASB がプロジェクトの完成を最優先すると決定しているため、上記の表に含めていない。

#### 4. 財務報告のニーズの理解とバランスの達成

意見募集では、質問 1 の全体的な戦略的方向性に加えて、既存のプロジェクトと新規のプロジェクトの優先順位に関する意見も募集してい

る（質問 2）。そのプロジェクトの候補は、図表 1 に掲げるものである。

IASB は、現在、収益認識、リース、保険契約、金融商品等のプロジェクトを既存の優先事項として継続的に検討しており、また、概念フレームワークのプロジェクトや適用後レビュー

5 出典 Request for Views, *Agenda Consultation 2011*, p14

の実施など、取り組むことを予定している活動がある。そうした中で、関係者の財務報告のニーズと、IASB と関係者が直面する資源の制約をバランスさせた上で、既存のプロジェクト及び新規のプロジェクトの優先順位をどのようにすべきかについて、関係者の意見を聞いている。

## (1) 財務報告ニーズ

IFRS による財務諸表を利用する投資者、融資者及び他の債権者だけでなく、その他、財務諸表作成者、監査人、証券規制当局、監督規制当局、国内基準設定主体、IFRS を法令に組み込むことに関与している人々など、様々な利害関係者のニーズと優先順位を考慮するとしている。また、これまで、IASB の焦点は、欧州、豪州等の IFRS への移行のニーズ、米国会計基準とのコンバージェンス、世界的な金融危機対応にあったが、地域的ニーズにも目を配り、アジア、中南米、カナダなど他の地域のニーズも考慮するとしている。

## (2) 制約要因

アジェンダ設定の際には、いくつかの制約に留意する必要もある。例えば、利害関係者がデュー・プロセスの要求事項に対応できるか考慮する必要がある。また、最近完成した又は完成途上の IFRS の適用とそれらへの適合に時間が必要であり、特に近年、IASB の基準設定活動が活発になっていることから、多くの人々が、この水準の基準設定活動から一定期間解放されたいと願うようになっている。さらに、IASB 内の資源（理事及びスタッフ）の制約があるが、これは各国基準設定主体（NSS）や他の機関と協力することで軽減される可能性もある。

IASB は、アジェンダの追加、削除の決定にあたっては以下の点をバランスさせる必要があるとしている。

- その財務報告ニーズの緊急性、重要性及び一

般性

- 対処すべき論点の範囲と複雑性
- 利害関係者がデュー・プロセスの要求事項に対応し、変更を適用できる能力
- 他の機関と協力する機会とのバランスにおける IASB の資源の制約

### 質問 2

IASB の基準設定行動に対する最も緊急の財務報告ニーズは何だと考えるか。

#### 質問 2 (a)

種々の制約を考慮して、IASB はどのプロジェクトを優先すべきか。その理由は何か。可能であれば、包括的なプロジェクトが必要なのか、狭い範囲の、目標を絞った改善で十分なのかを説明のこと。

#### 質問 2 (b)

IASB のアジェンダに新たなプロジェクトを加えるには、アジェンダの優先順位と利用可能な資源とのバランスが必要である。

IASB のアジェンダに以前に加えられたが延期されたプロジェクト（図表 1 参照）のうち、新たなプロジェクトの余地を作るために、どれを削除するか。その理由は何か。IASB のアジェンダに以前に加えられたが延期されたプロジェクトのうち、どれを復活させるべきだと考えるか。その理由は何か。質問 2 (a)への回答と関連付けて回答のこと。

IASB は、プロジェクト選択の際に、IASB デュー・プロセス・ハンドブックに記載の以下のアジェンダ要件に照らして評価するとしている。

- 関連情報の利用者にとっての目的適合性及び提供され得る情報の信頼性
- 利用可能な現行のガイダンス
- 一層のコンバージェンスの可能性
- 開発される IFRS の質

● 資源の制約

また、IASB がプロジェクトに配分する資源は、プロジェクトの範囲の広さや論点の複雑性など、いくつかの要因によって変わってくる。IASB ではこれらの点を考慮しつつ全体的バランスをはかってアジェンダを選択する。

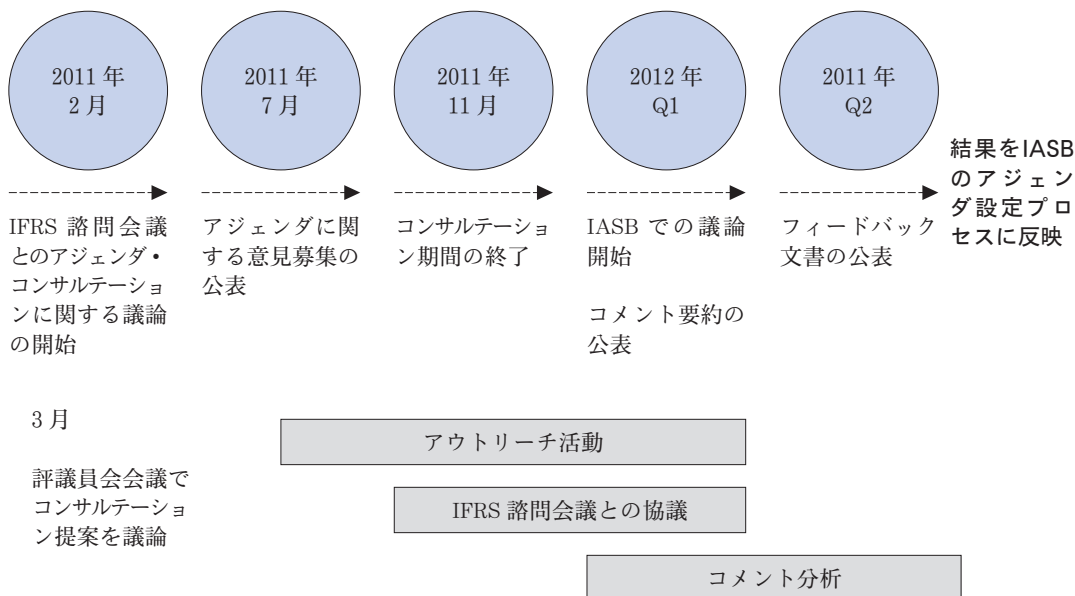
## 5. おわりに—アジェンダ設定までのプロセス

IASB は、2011 年 11 月 30 日まで一般からのコメントを募集している。また、意見募集に加えて、アウトリーチ活動を行い、広範囲の利害関係者からのインプットを集める予定としている。来年第 1 四半期には、公開の IASB 会議でアジェンダ提案を審議するとともに、IFRS 諮問会議、IFRS 財団評議員会及び各国基準設定

主体との協議を行う。来年第 2 四半期にはフィードバック文書を公表し、アジェンダ・コンサルテーションの結果を審議プロセスに反映することとなる（図表 2 参照）。

我が国では、IFRS の適用のあり方を巡って企業会計審議会で審議が続けられている状況である。こうした中、アジェンダ・コンサルテーションは IFRS の今後の大きな方向性に影響を与える可能性があるため、我が国関係者にとっても関心が高い IASB の活動の 1 つとなっている。IASB では、コメント以外でも、アウトリーチ活動やイベントでの情報収集を、今後の戦略的方向性の策定、アジェンダ設定に役立てることとしているが、IFRS に対する期待が作業計画に反映されることを通じて、IFRS が一層幅広く世界に受け入れられるようになっていくことを期待したい。

図表 2 2011 年アジェンダ・コンサルテーションの日程<sup>6</sup>



6 出典 Request for Views, *Agenda Consultation 2011*, p16